

SCOPE

空港技術、初の体系化

計画・設計・建設・運用まで網羅

多岐にわたる空港の整備・維持管理に関する技術を国内で初めて一冊に体系化した工学書「空港工学」を港湾空港建設技術サービスセンター（SCOPE、広瀬宗一理事長）が発刊した。空港は土木、建築、電気・機械、無線などの多様な施設で構成され、それぞれに要求基準が存在する。同書では、関連技術を解説しながら各施設の計画・設計・建設段階での配慮事項を網羅し、建設後の維持管理や運用上の重要事項も取りまとめた。これ1冊あれば、空港プロジェクトで技術者に必要とされる知識や考え方を一通り理解できるといふ。

日本の空港建設の歴史の中で、多くの技術者が空港技術の体系化を試みてきたが、構成施設や技術の多様性から実現しなかった。このためSCOPEは、08年夏に国土交通省の航空局や国土技術政策総合研究所、関西国際空港会社、民間企業などから空港に関係する33人の技術者を集めて編集委員会を組織し、空港技術の体系化に取り組んできた。

編集に当たっては、可能な限り空港を構成する諸施設の概要と関連技術を紹介し、各施設の計画・設計・建設段階での配慮事項や、維持管理・運用段階での重要事項を網羅。空港内の表示や標識などの最近の基準、ターミナルビルの計画・設計上の配慮事項、空港舗装の性能規定なども盛り込んだ。利用者の参考になるよう、直近の航空行政の動きも記載した。

具体的には、「空港技術総論」「空港の計画」「空港の建設」「空港の運用と管理」の4部16章で構成。各章は、▽空港土木に関する技術基準▽環境に配慮した空港整備▽建設マネジメント▽用地造成▽付帯施設▽建築構造物▽空港保安施設▽空港の維持・管理などで、特に航空機の安全な運航に影響が大きい滑走路、誘導路、エプロンの空港舗装については、詳細な解説を加えている。国内では先月、羽田空港への国際定期便の就航が32年ぶりに再開され、そのための空港拡張事業の一環として4本目の滑走路を完成させるために最先端の空港技術が集められた。今年是国内で動力による航空輸送が始まってから100周年にも当たり、こうした時期に空港技術の体系化に向け一歩を踏み出したことになる。同書はA4版500頁で、価格は1万9048円（税別）。問い合わせはSCOPE（電話03・35503・2081）へ。